

## 2024年 春季参加報告書

参加プログラム：トゥレーヌ学院

参加時の学年：2年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

私の留学の目的は、フランス語の語学力向上とフランスの文化や社会を肌で感じることでした。大学1年次から必修でフランス語文法や会話の授業を受けていましたが、文法はかなり理解できるものの、リスニングやスピーキングにおいてはまだまだ実力不足だと感じ、今回の留学で少しでも実力がつげばと思っていました。また私はフランスの文化、特に芸術に興味があり、様々な美術館や展示会を訪れることができたらと考えていました。

留学生活はSNSをチェックする暇がないほど毎日とても充実していました。私は人生初の海外・ホームステイだったのですが、その国の生活に順応する楽しさや難しさを知りました。日本とは異なる景観や食事、文化を楽しむことができました。私にとってフランスの街並みは見飽きることなく、毎日散歩したくなるような街並みでした。またマダムが作ってくださったフランス料理がとても美味しく、毎回の食事が楽しみでした。食事の際にマダムがたくさん話しかけてくださったおかげで、私も積極的に話すようになり、日を重ねるごとにスムーズに会話できるようになりました。そして、フランス人は日の光を日常的に入れることを重要視しているように感じました。日本ではたとえ晴れていてもカーテンを閉め切って過ごすこともあったのですが、日の光を生活に取り入れることで、気分が心なしか明るくなって心地良く過ごすことができると気づきました。また、私のマダムが自分の意見をはっきりと伝える方だったのもあり、最初は遠慮していましたが、私も言いたいことを躊躇せずに伝えられるようになりました。日本人は他人の感情を押し量らって話すことが多いように感じますが、フランス人のように意思をはっきりと伝えることも生きていく上で大事ななと思いました。その点において、私は今回の留学で精神的に鍛えられ、以前より積極的になりました。



印象に残ったことは、フランスの挨拶の習慣です。お店に入る際は Bonjours や Bonsoir、会計後には Merci, au revoir や Bonne journée など、店員さんと挨拶を交わすのが素敵だなと感じました。この挨拶の習慣が日本にもあれば、もっと心地良い買い物になると思いました。また、フランスのストライキやデモの多さに驚きました。私が留学した時期には農業者のデモや国鉄 SNCF のストライキがありました。日本よりもこうした活動が頻繁に行われていて、フランス人の自分の権利を主張する強さや過激さを感じました。加えて驚いたことは、街で見かけるホームレスの多さです。トゥールの大通りにも毎日のように座っている姿を見かけましたが、パリでは道の真ん中に寝転んでいるホームレスも見かけて、驚くと同時に悲しさを感じました。日本問わずフランスなどのこうした社会問題に、今後はさらに目を向けていきたいと思いました。

今回の留学で大きく成長できたことが主に2点あります。1点目は語学力です。1ヶ月学校に通い、先生や海外から来たクラスメートから刺激を受け、スピーキングとリスニングの力が向上しました。最初は先生の話聞き取るのが難しかったのですが、だんだんと理解できるようになり、授業がとても楽しかったです。2点目は精神面での成長です。母国語が通じない地で1ヶ月過ごしたことは、私にとって大きな自信になりました。また海外から来たクラスメートと友達になり、会話を重ねていくうちに視野が広がり、心に寛容さが生まれたと感じています。私に良い影響を与えてくれた先生、クラスメート、そしてマダムにとっても感謝しています。また今回留学の機会を与えてくれた両親に心から感謝しています。これらフランスでの出会いは私の人生における財産となりました。今後はさらにフランス語の勉強に励み、フランス人のように流暢に話せるようになることが目標です。また仏検や DELF の取得にも挑戦しようと考えています。そして実力をつけてからもう一度フランスへ行けたらと考えています。

